

業況は低下、来期に改善の兆しが見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど令和7年7～9月期実績と令和7年10～12月期見通しについての調査結果（回答数79社、回答率79%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。業況DI値について、今期（令和7年7～9月期）の状況を集計したところ、業況判断DI値は前回調査と比べて、全ての業種で大幅なマイナスとなっている。売上についても前回調査と比べてマイナスとなっており、全産業で△8%から△25%、中でも製造業では0%から△46%と大幅な減少となった。資金繰りと経常利益についても大幅なマイナスとなっているが、建設業の経常利益のみ2期連続で上昇している。仕入単価は62%から61%とほぼ横ばい、3期連続で60%台となっている。

産業別業況判断DIの前3期からの推移と来期見通しから、全ての業種において来期の見通しは悪化となっておらず、特に建設業では△33%から0%と大幅な改善の兆候が見られる。

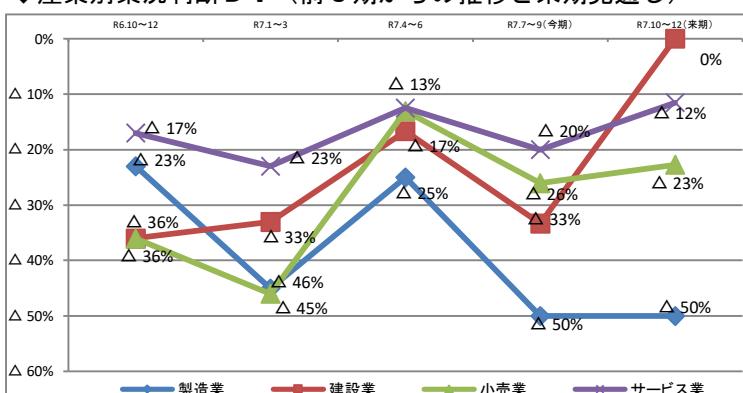
今期中に設備投資を実施した企業は全体の9%であり、割合が一桁台になったのは令和4年1～3月期以来であった。来期設備投資を実施予定の企業は14%であり、来期の設備投資計画がある企業の割合については最近の調査と比べて大きな差はなかった。

経営上の問題点については、全ての業種で需要の停滞が上位に入っており、売上減少、業況の悪化の原因と考えられる。また、製造業、建設業、サービス業で人件費の増加が上位に入っている。

◆業況DI値（今期の状況）

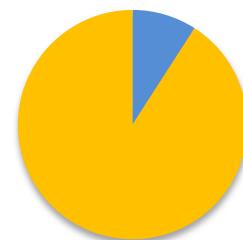
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△30%	↓	△25%	↓	△28%	↓	61%	↓	△34%	↓	△7%	↓
製造業	△50%	↓	△46%	↓	△46%	↓	69%	↓	△36%	↓	△15%	↓
建設業	△33%	↓	△25%	↓	△25%	↓	58%	↑	△25%	↑	8%	↓
小売業	△26%	↓	△30%	↓	△22%	↓	65%	↓	△35%	↓	△15%	↓
サービス業	△20%	↓	△8%	↓	△24%	↓	50%	↓	△35%	↓	0%	↑

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

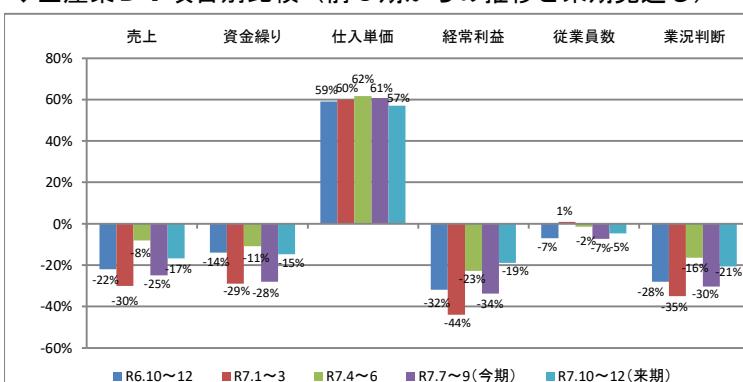


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

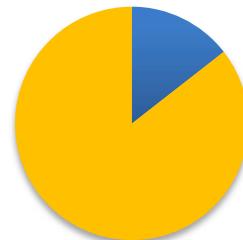
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇	21.2%	民間需要の停滞	14.8%
2位	需要の停滞	18.2%	官公需要の停滞	14.8%
3位	人件費の増加	15.2%	人件費の増加	14.8%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。